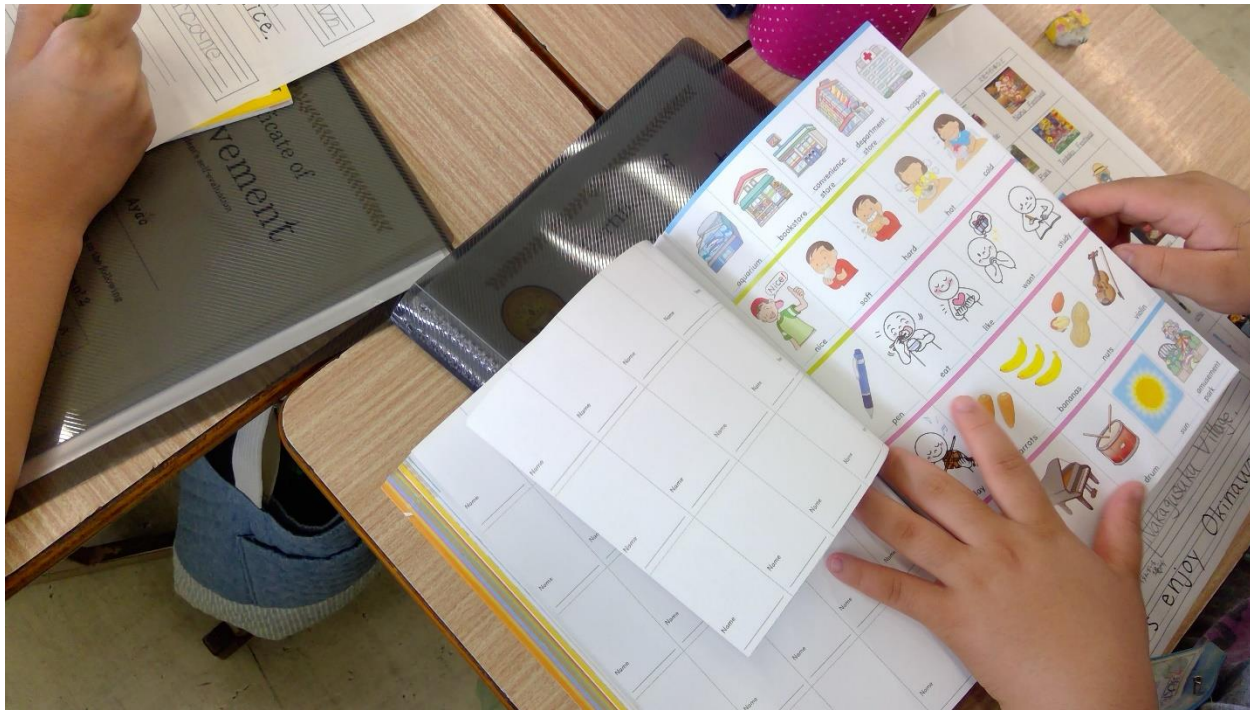


校内研修の進め方



大城賢
琉球大学教育学部
koshiro@edu.u-ryukyu.ac.jp

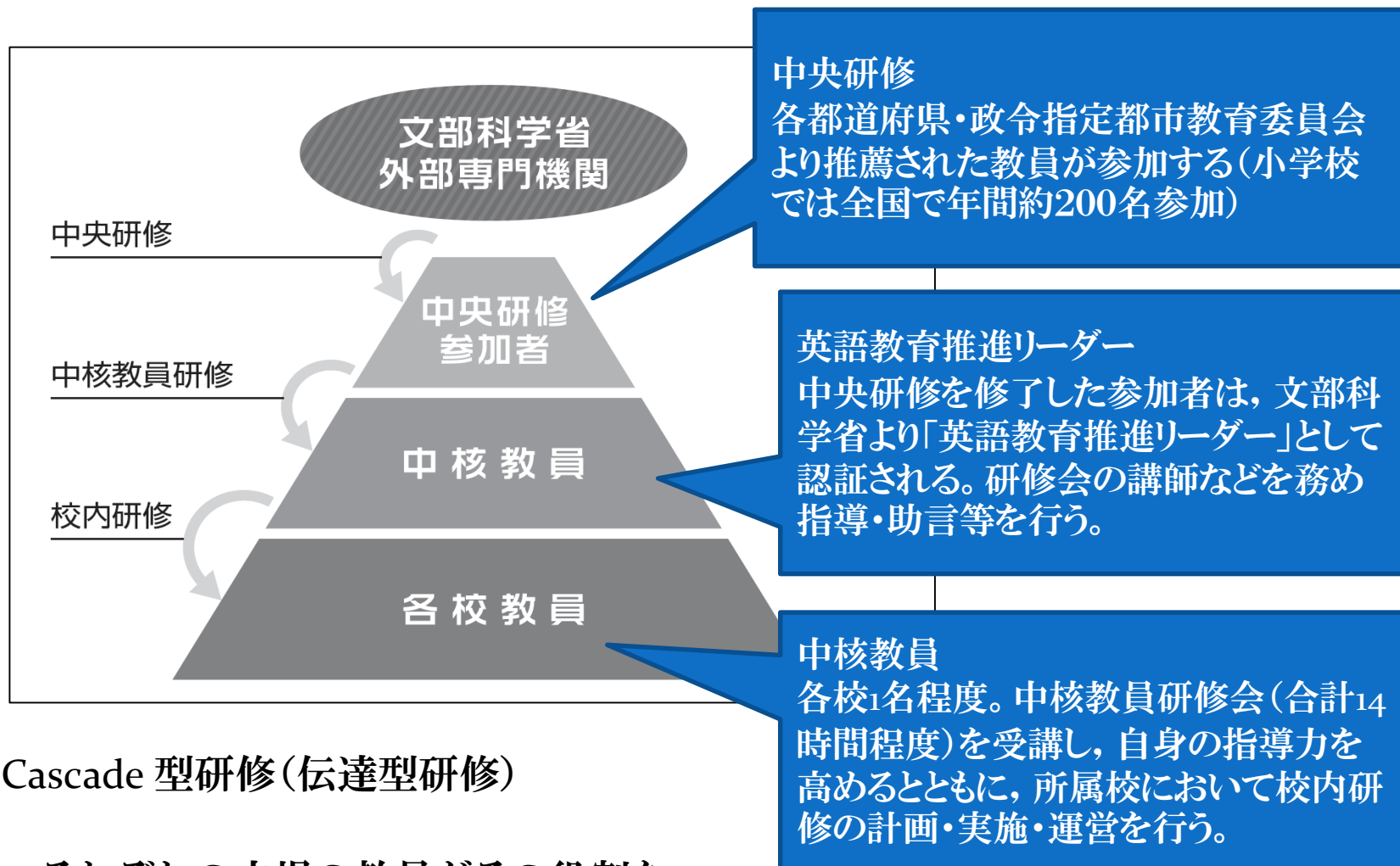
Outline

本講座の内容

- 1 国が進める研修の仕組みを理解する。
- 2 必要な知識と技能, 英語力を理解する
- 3 移行期の重要性を理解する

教科化成功のカギは校内研修

国が行う研修の仕組み



Cascade 型研修(伝達型研修)

それぞれの立場の教員がその役割をしっかりと果たすことが鍵！

校内研修の進め方

(1) **学校長のリーダーシップ**による校内研修体制づくり
各小学校において、校内研修を効果的に運営するためには、学校長のリーダーシップが欠かせない。特に今回の学習指導要領の改訂においては外国語教育はかつてない歴史的な大改革となっている。**移行期には特別の配慮が必要**である。

(2) 中核教員による校内研修の計画・実施・授業公開
他教科を校内研修のテーマをしている場合であっても、**移行期に必要な研修は確実に実施**することが求められる。

(参考 「研修ガイドブック」)

授業研究の進め方

- (1) **教員全員の指導力**を高める
- (2) 学校としての**共通理解**を図る
- (3) **課題を共有**する(何をどうすれば上手くいくか)
- (4) **全校体制**で行う(学級経営, 学校経営, カリキュラムマネジメントへ活かす)
- (5) 「**教科横断的**な授業づくり」という視点を加えて授業を創ってみる。
- (6) **英語担当指導主事などの指導**を受ける(学習指導要領の目標, 内容を踏まえているかチェックしてもらう)
- (7) 全教員が「**授業づくり**」を**体験**できるようにする。
- (8) 担任主導, 専科主導, TTなど**柔軟な対応**を心がける

カリキュラム・マネジメントの推進

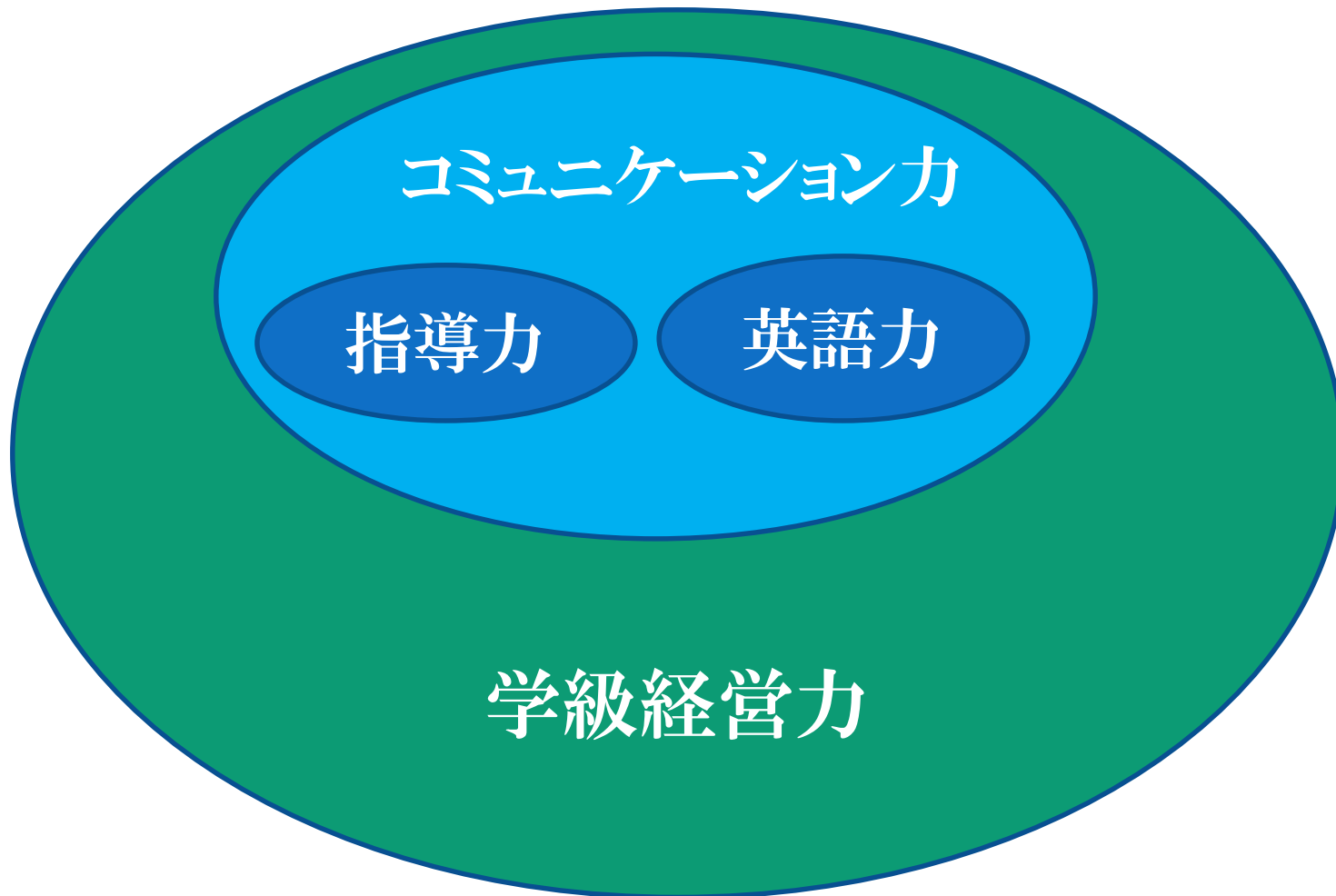
(1) 新学習指導要領における定義

児童や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育内容等を**教科等横断的な視点で組み立てていくこと**，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと**などを通して，教育課程に基づき**組織的かつ計画的**に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと。

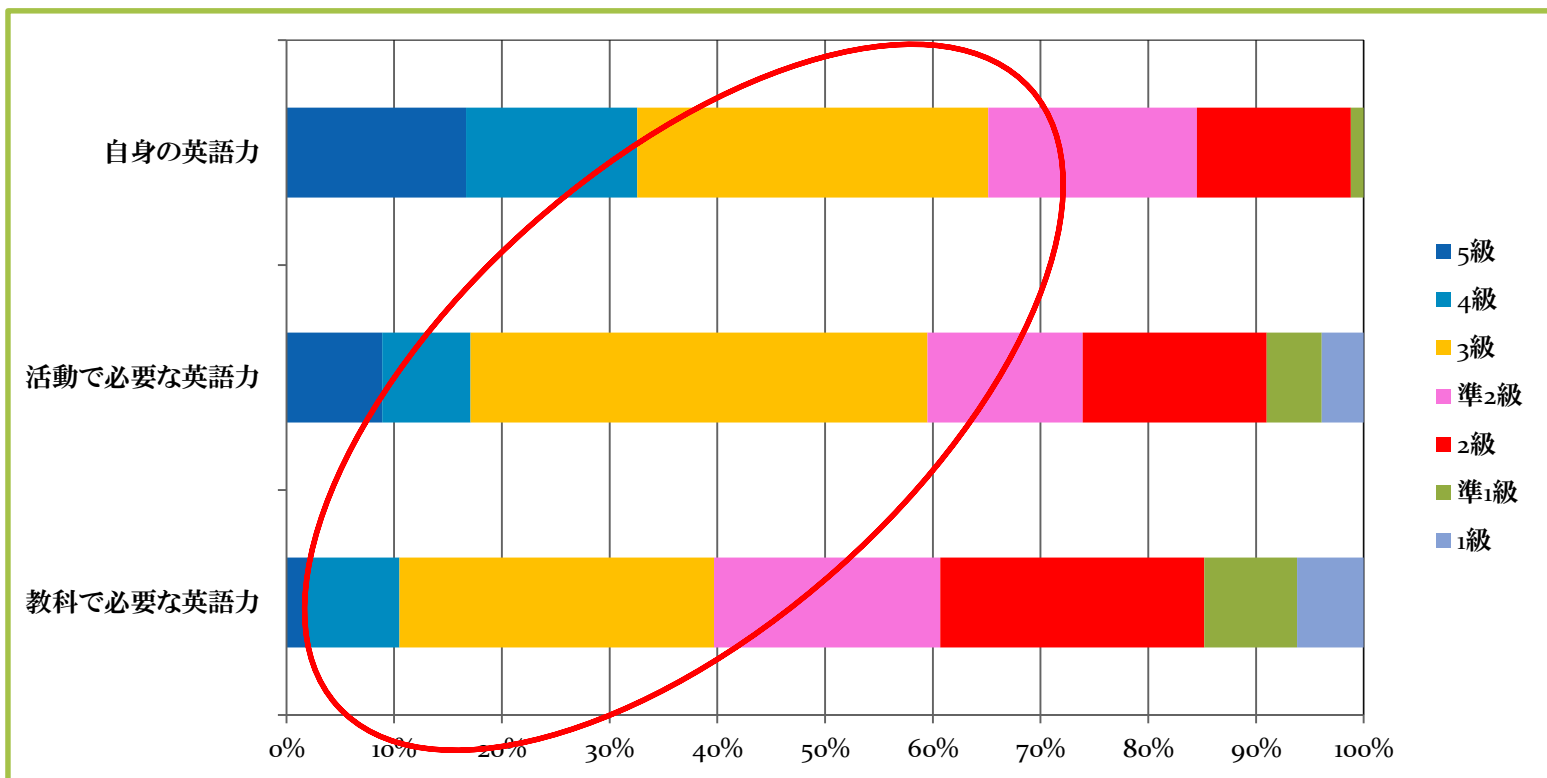
(2) 教科におけるカリキュラムマネジメント

1単元での設計 **2年間**での設計 **3年間**での設計 **6年間**での設計 **9年間**での設計 教育課程全体を見通して弾力的な時間割編成を行う必要性

英語の授業を支える力とは？

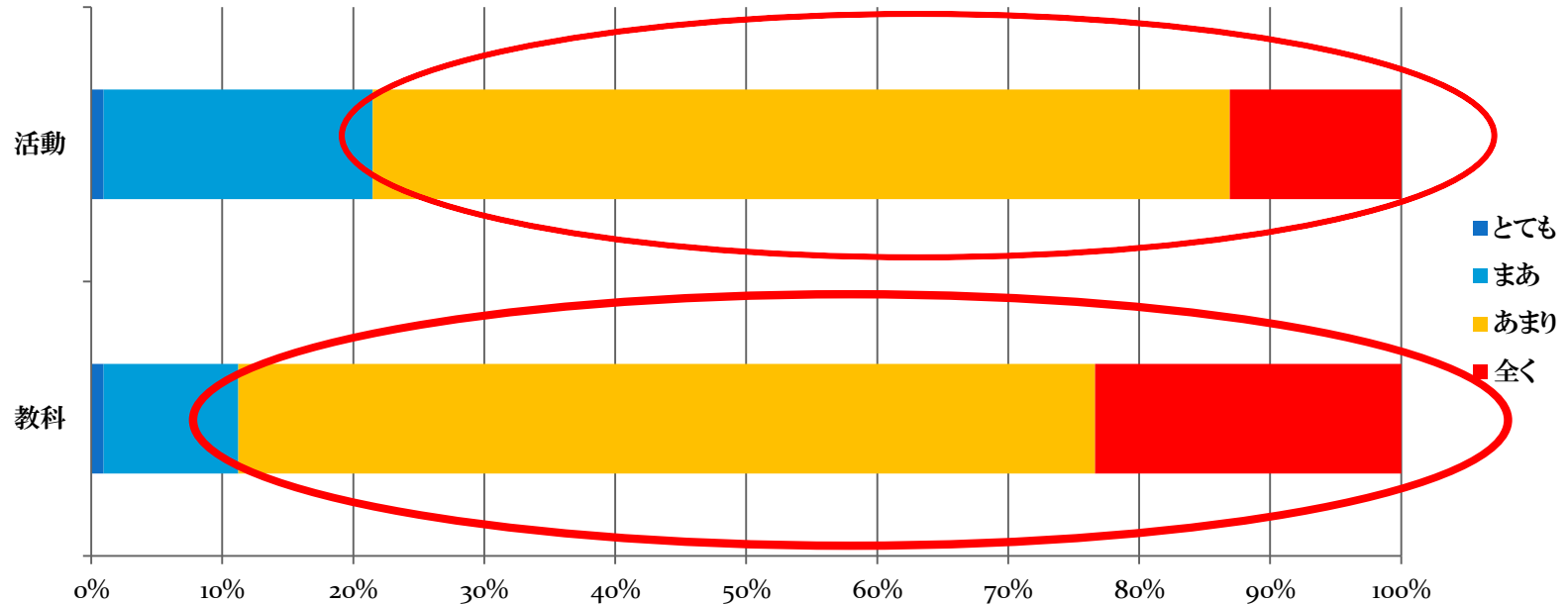


小学校教員へのアンケート結果



自分自身の英語力を英検5級程度と自己評価している教員が16.7%，4級程度が15.9%，3級程度が32.6%，準2級程度が19.4%，2級程度が14.3%，準1級程度が1.2%となっている。**自分の英語力を2級以上(上級級を含む)と考えている教員は15.5%。**外国語活動に必要な英語力は3級程度と答えている教員は42.4%で最も多い。教科外国語で2級以上が必要と考えている教員は24.5%，準1級8.6%，1級6.2%。

これから導入される小学校3, 4年生の外国語活動の指導に自信がありますか。
 これから導入される小学校5, 6年生の教科・外国語の指導に自信がありますか。



外国語活動:あまり自信がない(63.4%) + 全く自信がない(14.0%)

外国語:あまり自信がない(62.8%) + 全く自信がない(22.1%)

新教材 + 指導書 + 指導案 + ワークブック + 電子黒板 + 研修 =

大丈夫, かも

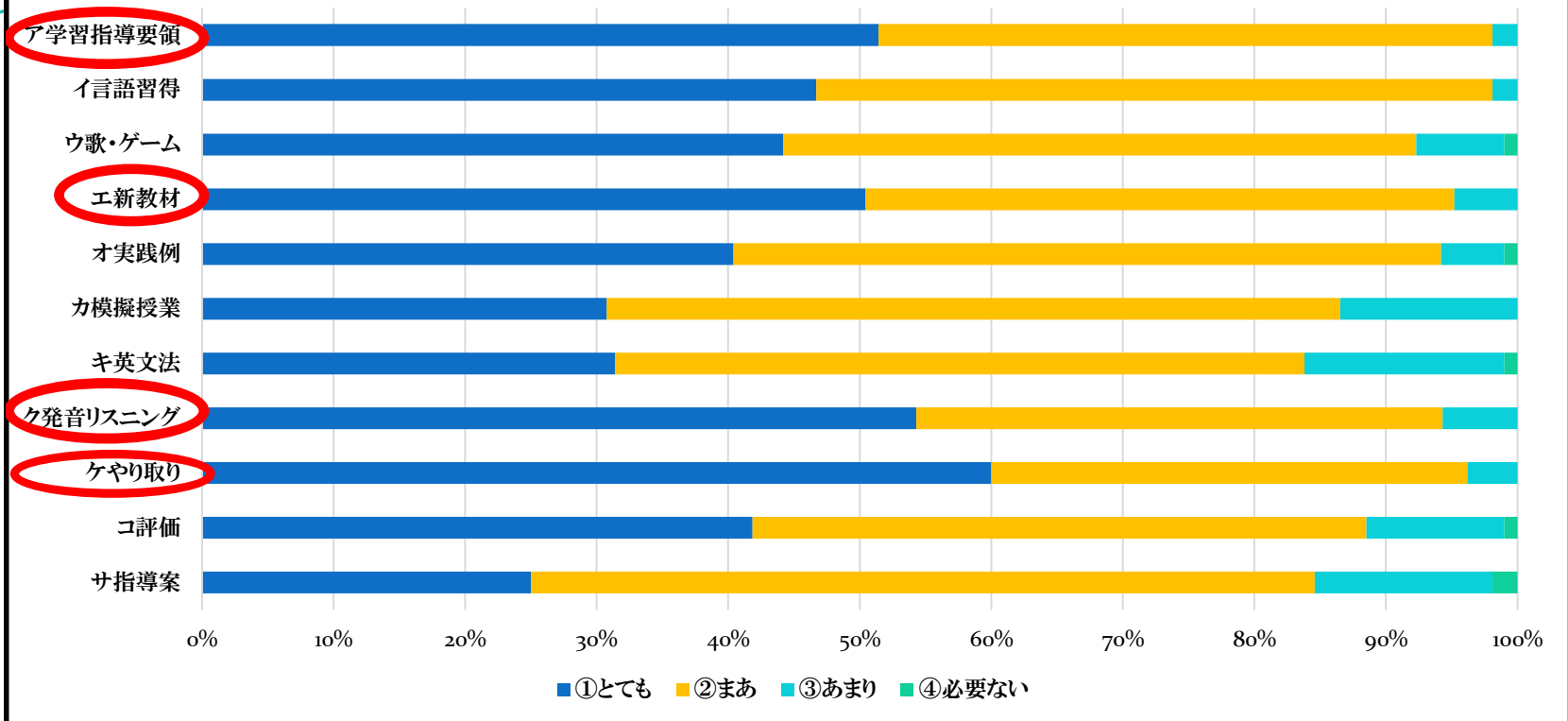
＜外国語活動に対する不安＞

- 定型文は覚えて使えるが会話は定型だけではできない
- クラスルームイングリッシュが不安
- 自分自身英語が苦手
- 正しい発音ができるか不安
- すぐに会話が出ないことがある
- 指導内容がわからない
- 授業の進め方がわからない
- 苦手な教科で教材研究も不安

＜外国語に対する不安＞

- 低学年よりも内容が難しく、急な対応ができるか不安だ
- 過去形、未来形が入ってくるから
- どのくらいのレベルの英語を教えるか、指導の不安

自分自身が外国語活動や外国語を教えることになった場合、必要な研修は何ですか



ア **学習指導要領**の理解:とても(51.4%) + まあ(46.7%) = 98.1%

ケ **やり取り**に関して:とても(60%) + まあ(36.2%) = 96.2%

エ **新教材**に関して:とても(50.5%) + まあ(44.8%) = 95.3%

ク **発音**に関して:とても(54.3%) + まあ(40%) = 94.3%

小学校教員研修
外国語（英語）コア・カリキュラム 構造図

外国語・外国語活動において育成を目指す資質・能力
 （「小学校学習指導要領（案）パブリックコメント版」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（審判）別添資料」より作成）

知識・技能

- ・ 外国語の特徴やきまりに関する理解
- ・ 言語の働き・役割に関する理解
- ・ 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 など

思考力・判断力・表現力等

◆情報を整理しながら考えなどを形成し、外国語で表現したり、伝え合ったりすることに関する指導

- ・ 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。
- ・ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
- ・ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。 など

学びに向かう力・人間性等

- ・ 外国語を通じて、言語やその背景にある文化を理解しようとする態度
- ・ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・ 他者に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えや気持ちなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 など

内容	目的		
	基礎	発展	推進
指導に必要な知識・技能	学習指導要領	●	●
	主教材	●	●
	子どもの第二言語習得についての知識とその活用	●	●
	英語での語りかけ方	●	●
	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方	●	●
	文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方	●	●
	題材の選定、教材研究	●	●
	学習到達目標、指導計画（1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案）	●	●
	ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方	●	●
	ICT等の活用の仕方	●	●
	学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）	●	●
	小・中・高等学校の連携と小学校の役割	●	●
	指導計画（年間指導計画・短時間学習）	●	●
	英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）	●	●
	第二言語習得に関する基本的な知識	●	●
児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）	●	●	
異文化理解	●	●	
児童や学校の多様性への対応	※ 学校・児童の状況に合わせて適切に扱う		
英語力	授業で扱う主たる英語表現の正しい運用	●	●
	発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話	●	●
	板書や提示物における英語の正しい表記	●	●
	ALT等と授業について打ち合わせをするための表現	●	●
	クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り	●	●
	児童の発話や行動に対する適切な言い直し	●	●
児童の理解に合わせた適切な言い換え	●	●	
児童の発話や行動に対する即時的な反応	●	●	
授業研究	授業観察（中学校の授業観察も含む）	●	●
	授業公開	●	●
	公開授業等の企画・運営	●	●
	モデルとなる授業	●	●

●は当該の段階において、扱うことが必須とされる研修項目である。○は当該の段階において、扱うことが推奨される研修項目である。

1. 指導に必要な知識・技能

○ 学習指導要領

- ・ 外国語活動・外国語、中・高等学校の外国語科の目標・内容を理解している。

○ 主教材

- ・ 主教材の趣旨・構成・特徴、効果的な使用方法を理解し、実践に生かすことができる。

○ 子どもの第二言語習得についての知識とその活用

- ・ 子どもの第二言語の学び方の特徴について理解し、指導に生かすことができる。

○ 英語での語りかけ方

- ・ 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。

○ 児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方

- ・ 効果的に児童の英語での発話を引き出し、円滑にやり取りを進めることができる。

○ 文字言語との合わせ方、読む活動・書く活動への導き方

- ・ 効果的に音声言語から文字言語へ発展させ、読む活動及び書く活動へ導くことができる。

○ 題材の選定、教材研究

- ・ 児童の発達段階・興味関心にあった題材を選定し、教材研究ができる。

○ 学習到達目標、指導計画(1時間の授業づくり、単元計画・学習指導案)

- ・ 単元計画を立て、学習指導案を書くことができる。

○ ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方

- ・ ALT等とのチーム・ティーチングの中で担任の果たす役割を理解し、実践できる。

○ ICT等の活用の仕方

- ・ ICT等を有効に活用できる。

○ 学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)

- ・ 学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について理解し、適切に評価できる。

○ 小・中・高等学校の連携と小学校の役割

- ・ 小・中・高等学校連携の在り方、小学校の果たす役割を理解し、指導に生かすことができる。

○ 指導計画(年間指導計画・短時間学習)

- ・ カリキュラム・マネジメントについて理解し、年間指導計画及び効果的な短時間学習の計画を立てることができる。

○ 英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法等)

- ・ 英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法等)を理解し、指導に生かすことができる。

○ 第二言語習得に関する基本的な知識

- ・ 第二言語習得に関する基本的な事柄を理解し、指導に生かすことができる。

○ 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)

- ・ 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)について理解し、唱えたり歌ったりできる。

○ 異文化理解

- ・ 異文化理解に関する基本的な事柄を理解している。

○ 児童や学校の多様性への対応

- ・ 児童や学校の多様性について理解し、適切に対応することができる。

2. 英語力

○ 授業で扱う主たる英語表現の正しい運用

- ・ 授業で扱う主たる英語表現を正しく話すことができる。

○ 発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話

- ・ 発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話ができる。

○ 板書や提示物における英語の正しい表記

- ・ 板書や提示物を正しい英語で書ける。

○ ALT等と授業について打ち合わせをするための表現

- ・ ALT等と授業について英語で打ち合わせできる。

○ クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り

- ・ クラスルーム・イングリッシュを土台に、児童と意味のあるやり取りができる。

○ 児童の発話や行動に対する適切な言い直し

- ・ 児童の発話や行動に対して、正しい発話に導くために適切な言い直しができる。

○ 児童の理解に合わせた適切な言い換え

- ・ 児童の理解を促すために適切な言い換えができる。

○ 児童の発話や行動に対する即興的な反応

- ・ 児童の発話や行動を共感的に受け止めたり、さらにやり取りを進めたりするために、即興的に英語で反応できる。

3. 授業研究

○ 授業観察(中学校の授業観察も含む)

- ・ 基礎: 明確な視点を持って授業を観察し、指導に生かすことができる。

発展: 授業を観察することを通して、授業者の指導理念や児童の学習を促進・遅滞させている要因を分析できる。

○ 授業公開

- ・ 基礎: 授業を公開することを通して自身の指導力・英語力の課題を発見し次の指導に生かすことができる。

発展: 授業を公開することを通して効果的な指導法や教材を示し、広めることができる。


○ 公開授業等の企画・運営

- ・ 推進: 学校や地域の課題や進むべき方向性を的確に判断し、効果的に公開授業等の企画・運営ができる。

○ モデルとなる授業

- ・ 推進: 学習指導要領の趣旨や子どもの第二言語習得の特徴を反映した授業を行い、他の教員に対しモデルを示す。


1. 指導に必要な知識・技能

- 
- 学習指導要領
 - 主教材
 - 子どもの第二言語習得
 - 英語での語りかけかた
 - 発話の引き出し方, やり取りの進め方
 - 文字言語との出会わせ方
 - 読む・書く活動への導き方
 - 題材の選定, 教材研究
 - 学習到達目標, 指導計画
 - ALT等とのTTの指導のありかた
 - ICT等の活用の仕方
 - 学習状況の評価

- 小中高等学校の連携と小学校の役割
- 指導計画(カリキュラムマネジメント)
- 英語に関する基本的な知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法)
- 第二言語習得に関する基本的な知識
- 児童文学
- 異文化理解
- 児童や学校の多様性への対応

コア・カリキュラム

2. 英語力

- 
- 授業で扱う主たる英語表現の正しい運用
 - 発音や強勢・リズム・イントネーションを意識した発話
 - 板書や提示物における英語の正しい表記
 - ALT等との授業についての打ち合わせをするための表現
 - クラスルーム・イングリッシュを土台にした意味のあるやり取り
 - 児童の発話や行動に対する適切な言い直し
 - 児童の理解に合わせた適切な言い換え
 - 児童の発話や行動に対する即興的な対応

3. 授業研究

○授業観察(中学校の授業観察も含む)

基礎:明確な目標を持って授業を観察し、指導に生かすことができる

発展:授業を観察することを通して、授業者の指導理念や児童の学習を促進・遅滞させている要因を分析できる

○授業公開

基礎:授業を公開することを通して自身の指導力・英語力の課題を発見し次の指導に生かすことができる

発展:授業を公開することを通して効果的な指導法や教材を示し、広めることができる。

○公開授業の企画・運営

推進:学校や地域の課題や進むべき方向性を的確に判断し、効果的に公開授業などの企画・運営ができる

○モデルとなる授業

推進:学習指導要領の趣旨や子どもの第二言語習得の特徴を反映した授業を行い、他の教員に対してモデルを示す。

コア・カリキュラム

指導力



- 中核教員を中心とした校内研修
- 「研修ガイドブック」の活用
- 文科省のHPなどの活用

英語力



- ＜授業で必要な英語力に絞る＞
- 授業内で英語力を上げる
 - 教員どうしのSmall Talk
 - オンライン英会話等の活用

連携・協働



民間企業



教育委員会



大学



校長先生



大学生



中学校の先生



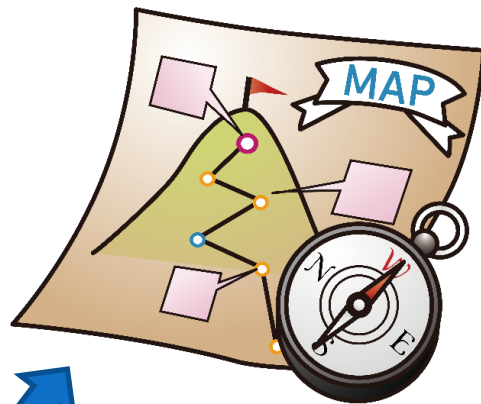
小学校の先生



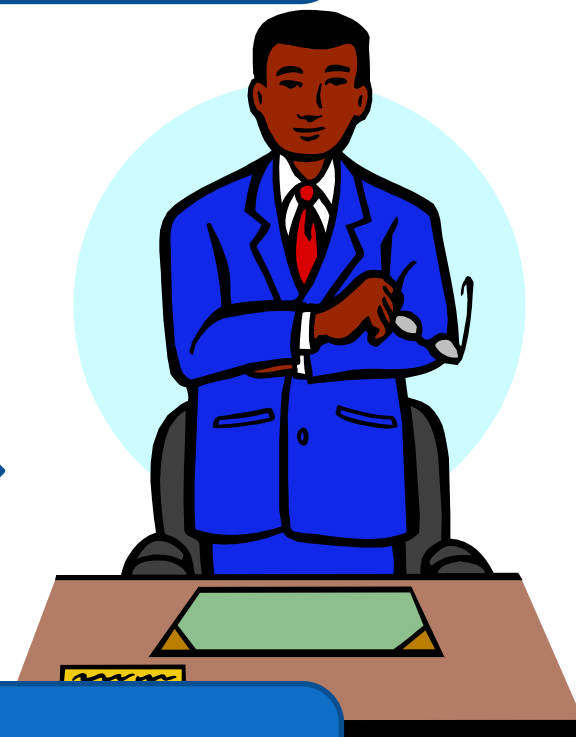
高校の先生



ALT 外部人材



英コ教師



英語コミュニケーション教師